

# 保育者に必要な音楽的能力の養成

## ——基礎技能の観点から——

○角藤 智津子  
(埼玉県立大学短期大学部)

古川 哲也  
(清和大学短期大学部)

### 1、はじめに

幼稚園教諭や保育士を養成する学校では、各校が保育者に必要と考えた音楽的能力を伸ばすために、さまざまな音楽関連のカリキュラムが工夫されている。ピアノ奏法に多くの時間をとる学校があるし、声楽に力を入れる学校もある。

研究対象とした2年制のA校では、「基礎技能 音楽Ⅰ」という科目が開講されている。この科目内容を新しく作成し、2年間の実践から得られた結果を示したい。

### 2、研究方法

以下の順番で検討する。

- 1) 音楽関連科目の開講のきまり
- 2) 保育者に必要な音楽能力
- 3) A校における「基礎技能 音楽Ⅰ」の授業内容
- 4) 保育者に必要な音楽能力を身に付けられたのか

### 3、研究結果

#### 1) 音楽関連科目の開講のきまり

幼稚園教諭や保育士などの保育者を養成する機関においては、それぞれ「教育職員免許法施行規則」「指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」に基づいたカリキュラムを作成しなければならない。音楽関連科目を一番少なく設定した場合、表1となる。

表1

| 資格         | 科目                         |
|------------|----------------------------|
| 幼稚園教諭二種免許状 | 教科に関する科目<br>音楽2単位          |
| 保育士資格      | 基礎技能4単位<br>(音楽、造形、体育とあわせて) |

2つの資格を取得する学校の場合は、音楽2単位として、両方の資格に共通な科目立てをする場合がほ

とんどである。音楽関連科目は、最低単位数を超えて開講されている例が多い。

研究対象のA校は、保育士養成のみが行われており、音楽関連科目は必修で40時間開講されている。このうちの30時間が「基礎技能 音楽Ⅰ」1単位となっている。

この他に、保育内容という科目の中に、保育実践に直結した音楽関連の内容が含まれていることが多いが、今回の検討では、扱わない。

#### 2) 保育者に必要な音楽的能力

大山美和子は、子どもが小学校に入学するまでに、音の高低、長短、強弱、音色（人の声も含む）の4つを意識、認識化させることが必要であると言う。<sup>1</sup> 保育者は、これらのことを子どもに指導し、援助することができる音楽的能力が必要であると考ええる。具体的には、

- ① 楽典の基礎知識がある。
- ② 歌を楽しんで歌う。
- ③ ピアノ等の伴奏楽器で、子どもの歌や合奏に伴奏ができる。
- ④ 打楽器を中心としたいろいろな楽器の奏法を知っていて、実際に演奏ができる。
- ⑤ 標題音楽を中心にした、音楽史の知識がある。
- ⑥ 音楽関連の機器の使用法の知識がある。
- ⑦ 将来、初めて見る曲、新しいジャンルの音楽、新しい音楽教育法に接した時に、自分の考えで保育に取り入れるかどうかを判断できる。

の7つの能力が必要である。

#### 3) A校における「基礎技能 音楽Ⅰ」の授業内容

開講時期：1年後期

学生数：30名

教員：4名

専任教員A（音楽教育、ピアノ奏法、歌唱法）

非常勤教員B（表現指導法・打楽器奏法）

非常勤教員C（ピアノ奏法、編曲法）

非常勤教員D（歌唱法、音楽療法）

教室：30名定員の集団教育装置のある部屋1、  
5名定員のレッスン室3

授業形式：1回の授業を前半、後半に分け、学生は、  
2つの異なる内容を、異なる教員から、異なる教室  
学ぶ。従って、授業の教室を、途中で、1回移動する。

実技のみを、いわゆる個人レッスンの形で教授す  
ることだけが授業内容となる教員はいない。どの教  
員も、自分の専門を講義する機会がある。

大きな教室で15人ずつの授業をする教員1名と、  
レッスン室で5人ずつの授業をする3名の教員で、  
4つの内容が平行して行われる。

学生は、4つの内容のうち2つを、毎週換わりな  
がら勉強する。学生Bの例を表2に示す。

表2 学生Bの授業内容

| 回  | 時間帯         | 授業の内容      |
|----|-------------|------------|
| 1  | 13:00~14:30 | 夏休み課題発表会   |
| 2  | 13:00~13:45 | 保育の中の音楽    |
|    | 13:45~14:30 | うた         |
| 3  | 13:00~13:45 | 幼児教育における楽器 |
|    | 13:45~14:30 | ピアノ・基礎     |
| 4  | 13:00~13:45 | ピアノ奏法の基本   |
|    | 13:45~14:30 | 打楽器        |
| 5  | 13:00~13:45 | 子どものうたの特色  |
|    | 13:45~14:30 | ピアノ伴奏法     |
| 6  | 13:00~13:45 | 子どものうたの伴奏法 |
|    | 13:45~14:30 | うた         |
| 7  | 13:00~13:45 | 合奏と指揮法     |
|    | 13:45~14:30 | ピアノ・基礎     |
| 8  | 13:00~13:45 | 編曲法        |
|    | 13:45~14:30 | 打楽器        |
| 9  | 13:00~13:45 | 合唱         |
|    | 13:45~14:30 | ピアノ伴奏法     |
| 10 | 13:00~13:45 | 合奏と鑑賞      |
|    | 13:45~14:30 | ピアノ・基礎     |
| 11 | 13:00~13:45 | 標題のあるピアノ曲  |
|    | 13:45~14:30 | 打楽器        |
| 12 | 13:00~13:45 | 子どものうた     |
|    | 13:45~14:30 | ピアノ伴奏法     |
| 13 | 13:00~13:45 | 保育所実習に向けて  |
|    | 13:45~14:30 | うた         |
| 14 | 13:00~14:30 | 和太鼓をたたこう   |

4)「保育者に必要な音楽能力を身に付けられた  
のか」についての教員による検討で得られた見解

①楽典の基礎知識がある。

- ・時間はかかるが、読譜はできるようになった。
- ・調性についての知識は浅い。

②歌を楽しんで歌う。

- ・授業後、学生同士で歌いながら帰る。
- ・担当者が工夫された教材を用い、歌うことへの学  
生の興味や意欲を高まった。

③ピアノ等の伴奏楽器で、子どもの歌や合奏に伴奏  
ができる

- ・毎回3曲はマスターしている。
- ・とりあえず伴奏はできる。
- ・伴奏の音の大きさやテンポに十分留意できるまで  
には至っていない。

- ・歌いはじめの指示を出す必要性を理解している。

④打楽器を中心としたいろいろな楽器の奏法を知っ  
ていて、実際に演奏ができる。

- ・基本的な楽器の奏法をよく学んだ。
- ・複雑なリズムを正確に打てるようになった。

⑤ 標題音楽を中心にした、音楽史の知識がある。

- ・標題音楽には、興味を持っている。
- ・音楽史の知識は、断片的である。

⑥ 音楽関連の機器の使用法の知識がある。

- ・授業内では扱えなかった。

⑦ 将来、初めて見る曲、新しいジャンルの音楽、新  
しい音楽教育法に接した時に、自分の考えで保育に取  
り入れるかどうかを判断できる。

- ・新しい音楽教育法には、非常に興味を示す。
- ・自分の考えで保育に取り入れるかどうかを判断で  
きるかは、現在のところ、わからない

終わりに

少ない時間数の中では、効果をあげている授業内  
容だといえる。しかし、教員の中からは、「学生がみ  
な非常に熱心で、よく勉強するので、授業内容、方  
法が効果をあげている理由のすべてとは結論できな  
い。」との意見もあった。

今回は、授業内容を中心に、教員の側から見解によ  
る発表とした。今後は、より客観的なデータによる  
分析へと進みたい。

(研究協力：松倉恵子氏、望月雅枝氏)

1 大山美和子、「幼児の音楽教育」国土社1991